

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 57130044 A

(43) Date of publication of application: 12.08.82

(51) Int. Cl

G03G 9/08
G03G 15/01

(21) Application number: 56016376

(71) Applicant: CANON INC

(22) Date of filing: 06.02.81

(72) Inventor: IMAI EIICHI

(54) NEGATIVELY CHARGING MAGENTA TONER

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain a negatively charging toner giving a clear magenta image of a superior hue free from fog by adding a compound belonging to C.I. Solvent Red 49 and a compound belonging to C.I. Solvent Red 52 to a binding resin.

CONSTITUTION: A toner is prepared by dispersing rhodamine base FB or other compound belonging to C.I.

Solvent Red 49 and "Macrolex Red B5" or other compound belonging to C.I. Solvent Red 52 in a binding resin by 0.1W5wt% and 0.1W10wt%, respectively to the amount of the resin. The compound belonging to C.I. Solvent Red 49 is used in an amount equal to or smaller than the amount of the compound belonging to C.I. Solvent Red 52. Thus, a toner having high negative chargeability and giving a clear magenta image free from fog is obtd.

COPYRIGHT: (C)1982,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 昭57-130044

⑬ Int. Cl.³
G 03 G 9/08
15/01

識別記号

113

府内整理番号
6715-2H
6773-2H

⑭ 公開 昭和57年(1982)8月12日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全3頁)

⑮ 負荷電性マゼンタトナー

⑯ 特 願 昭56-16376
⑰ 出 願 昭56(1981)2月6日
⑱ 発 明 者 今井栄一
東京都大田区下丸子3丁目30番

2号キヤノン株式会社内

⑲ 出願人 キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子3丁目30番
2号
⑳ 代理人 弁理士 谷山輝雄 外3名

明細書

1. 発明の名称

負荷電性マゼンタトナー

2. 特許請求の範囲

トナー接着樹脂中にC.I.ソルベントレッド49に分類される化合物とC.I.ソルベントレッド52に分類される化合物とを有することを特徴とした負荷電性マゼンタトナー。

3. 発明の詳細な説明

本発明はカラー電子写真などに用いられる負荷電性カラーマゼンタ(Magenta)トナーに関する。従来電子写真法として米国特許第2,297,691号、特公昭42-23910号公報及び特公昭43-24748号公報などに種々の方法が記載されているが、一般には光導電性物質を利用し、種々の手段により感光体上に電気的潜像を形成し、次いで該潜像をトナーで現像し必要に応じて紙などに印刷を転写した後加熱、加圧或いは溶剤蒸気などにより定着するものである。また、カラーの多色像を得るためにには原稿を色分解フィルターを用いて

露光し上記の工程をイエロー、マゼンタ、シアンなどのカラートナーを用い複数回繰返し、トナー像を重ね合せカラー画像とするものである。

このようなカラートナーにはまず分光反射特性が良好であることが必須の条件であり、トナーに使用される着色剤にとってその色相は極めて重要な選択基準となる。マゼンタトナーとして良好な色相を与える着色剤として従来例えばC.I.ソルベントレッド(Solvent Red)49に分類されるようなローダミンBベース(Base)が知られている。しかしながらこのローダミンBベースは正荷電性が強く、負荷電性トナーとして使用すると、カブリが発生したりSharpnessが極めて悪くなったりし、場合によっては画像の反転現象が生じ実用上使用に供することができなかった。

本発明は以上のような状況に鑑み、色相の優れた正荷電性着色剤を含有しつつ極めて良好な負荷電性を有するマゼンタトナーを提供するものである。

すなわち本発明は、C.I.ソルベントレッド49に

(1)

(2)

分類される化合物と C.I ソルベントレッド 52 に分類される化合物とを有する化合物とを特徴とする負荷電性マゼンタトナーを提供するものである。

以下本発明トナーの構成成分について説明する。

C.I ソルベントレッド 49 に分類される化合物例としては、Aizen Rhodamine B Base Rhodamine Base FB 等のローダミン B Base があるが、これらは色相が極めて良好であり、微量の使用量で十分な着色力を与える。略々接着樹脂に対して 0.1 ~ 5 wt(%) の範囲で使用されるものである。0.1 wt% 以下では着色力が不足し、5 wt% 以上では負荷電性に重大な影響があり好ましくない。

さらに、この化合物の使用量は後述する C.I ソルベントレッド 52 に分類される化合物の使用量と同量かあるいはそれ以下にする必要がある。

C.I ソルベントレッド 49 に分類される化合物の使用量が多いと負荷電性が弱くないいわゆるカブリ等が発生し好ましくない。

又、C.I ソルベントレッド 52 に分類される化合物例としては Helio Oil Red R, Macrolex Red 5B

メチル共重合体、ステレン-メタアクリル酸エチル共重合体、ステレン-メタアクリル酸ブチル共重合体、ステレン-クロロメタアクリル酸メチル共重合体、ステレン-アクリロニトリル共重合体、ステレン-ビニルメチルエーテル共重合体、ステレン-ビニルエチルエーテル共重合体、ステレン-ビニルメチルケトン共重合体、ステレン-アセチエン共重合体、ステレン-イソブレン共重合体、ステレン-アクリロニトリル-インデン共重合体、ステレン-マレイン酸エステル共重合体などのステレン系共重合体、ポリメチルメタクリレート、ポリブチルメタクリレート、ポリ塩化ビニル、ポリ酢酸ビニル、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエスチル、ポリウレタン、ポリアミド、エボキシ樹脂、ポリビニルブチラール、ポリアマイド、ポリアクリル酸樹脂、ロジン、変性ロジン、テルペン樹脂、フェノール樹脂、脂肪族又は脂環族炭化水素樹脂、芳香族系石油樹脂、塩素化パラフィン、パラフィンワックスなどが単独或いは混合して使

(5)

等があり優れた負荷電性を与える。その使用量は接着樹脂の荷電性 C.I ソルベントレッド 49 の添加量、分散方法を含めた製造方法その他の添加剤の荷電性等他の条件をも考慮した上で好ましい色相及び負荷電性を与える様決めることができる略々接着樹脂に対して 0.1 ~ 1.0 (重量) % の範囲で使用するものである。0.1 (重量) % 未満では荷電制御効果が少なく、1.0 (重量) % を上回った場合には、所望の色相を損なう恐れがある。

本発明トナーに適用する接着樹脂としては公知のものがすべて使用可能であるが、例えはポリスチレン、ポリP-クロロスチレン、ポリビニルトルエンなどのスチレン及びその置換体の單體合体、スチレン-P-クロロスチレン共重合体、スチレン-プロピレン共重合体、スチレン-ビニルトルエン共重合体、スチレン-ビニルナフタリン共重合体、スチレン-アクリル酸メチル共重合体、スチレン-アクリル酸エチル共重合体、スチレン-アクリル酸オクチル共重合体、スチレン-メタアクリル酸

用できる。また現像剤に使用されるキャリヤーは從来から公知のものが使える。例えは鉄、コバルト、ニッケルなどの磁性物質及びそれらの合金や混合物あるいはこれらの表面にコーティングを施したものである。

さらに本発明トナーが使用される現像剤に関してはコロイダルシリカなどの流動性改良剤をトナーに対して 0.01 重量 % ~ 5 重量 % 好ましくは 0.1 重量 % ~ 2 重量 % 程度添加してもよい。

以下実施例により本発明を更に詳細に説明する。

実施例 - 1

ステレン-マレイン酸共重合体樹脂 1.00 重量部、ローダミンベース FB 0.5 重量部、Macrolex Red 5B 0.7 重量部をボールミルで混合粉碎後ロールミルで密着混練し、冷却後ヘンマーミルを用いて粗粉碎し、次いでエアージェット方式による微粉砂機で微粉砕する。得られた微粉末を分级して 1 ~ 2.0 μ を選択しトナーとする。このトナー 1.2 重量部に対しコロイダルシリカ 0.06 重量部、さらにキャリヤー鉄粉 8.8 重量部を混合し、現像剤と

(6)

した。

この現像剤中のトリガ電荷量を測定すると $-7.5 \mu\text{c/g}$ であった。尚トリガ電荷量の測定は所謂プローオフ法によった。この現像剤を用いてNPカラー複写機で複写したところ、分光反射特性が優れしかもカブリのない鮮明なMagenta図像が得られた。

実施例 - 2 - 3 - 4

トナー組成を以下のようにし、実施例 - 1 と同様に実施したところ（コロイダルシリカは添加していない）トリガ電荷量 $-8.3 \mu\text{c/g}$ $-6.3 \mu\text{c/g}$ $-6.8 \mu\text{c/g}$ と優れた負荷電性を示しつつ色相も良好なMagenta図像が得られた。

	トナー組成	トリガ電荷量
実施例 - 2	ステレン-マレイン酸共重合体樹脂	100重量部
	ロータミンB Base FB	3 "
実施例 - 3	Macrolex Red 5B	-8.3 $\mu\text{c/g}$
	ステレン-アクリル酸共重合体樹脂	100重量部
実施例 - 3	ロータミンB Base	2 "
	Helio Oil Red E	-6.3 $\mu\text{c/g}$
(7)		

	トナー組成	トリガ電荷量
比較例 - 3	ステレン-ブタジエン共重合体樹脂	100重量部
	ローダミンB Base	2 "
Macrolex Red 5B		
(7)		

	トナー組成	トリガ電荷量
実施例 - 4	ステレン-ブタジエン共重合体樹脂	100重量部
	ロータミンB Base	45 "
Macrolex Red 5B		
85 "		

[比較例 - 1 - 2 - 3]

トナー組成を以下のようにし、実施例 - 2 と同様に実施した比較例 - 1 では色相は良好であるがトリガ電荷量 $+5.1 \mu\text{c/g}$ を示し完全に反転した。又比較例 - 2 ではやはり色相は良いが負荷電性が弱く、カブリが発生した。比較例 - 3 では $-9.2 \mu\text{c/g}$ と負荷電性は十分であるが、にじりのあるMagenta図像しか得られなかった。

	トナー組成	トリガ電荷量
比較例 - 1	ステレン-マレイン酸共重合体樹脂	100重量部
	ローダミンB Base FB	$+5.1 \mu\text{c/g}$
比較例 - 2	ステレン-ブタジエン共重合体樹脂	100重量部
	ロータミンB Base	7 "
Macrolex Red 5B		
$-2.9 \mu\text{c/g}$		

代理人 谷 山 雄 雄

本 多 小 平

岸 田 正 行

新 部 興 治